

林業技術革新プロジェクト（拡充）

【平成28年度概算決定額 150,200（178,388）千円】

事業のポイント

施業の効率化を目指す技術開発等により、林業の技術革新を推進します。

<背景／課題>

- ・我が国の森林・林業を再生し、持続的な森林・林業経営対策を確立するためには、低コストで効率的な作業システムの確立が不可欠です。
- ・林業の収益性の向上や木材需要に対応した原木の安定供給等を着実に推進するため、作業システムの生産性・安全性を向上する林業の技術革新が必要です。

政策目標

素材生産量に占める高性能林業機械を使用した生産量の割合を平成32年度までに7割に増やします。

低コスト造林技術を導入した事業体の割合を平成32年度までに7割に増やします。

<内容>

1. 森林作業システムの高度化

森林作業道作設オペレーターや高度な架線集材技能者の育成、素材や木質バイオマスの生産を効率化する林業機械の開発・改良等を行います。

2. 低コスト造林技術実証・導入促進

伐採・地ごしらえ・植栽等の一体化による低コスト造林技術等を実証してデータを収集・整理し、導入促進に向けたノウハウの提案等を行います。

<委託先>

民間団体等

<事業実施期間>

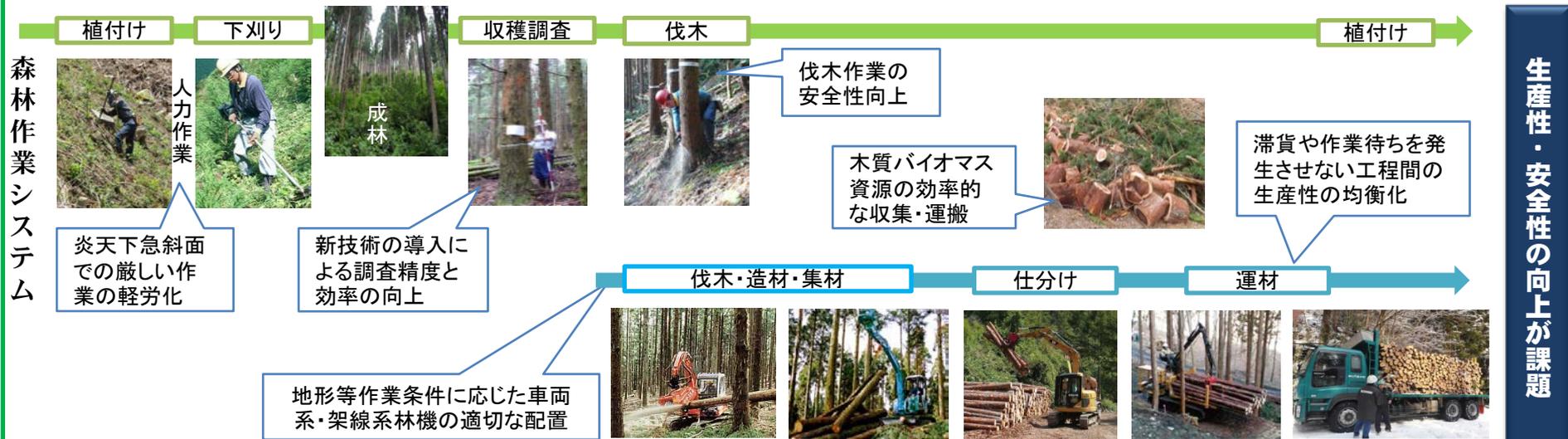
平成28年度～32年度（5年間）

[担当課：林野庁研究指導課、整備課]

林業の収益性の向上や木材需要に対応した多様な原木の安定供給等を着実に推進して林業の成長産業化を図るため、木材生産から伐採跡地の更新及び育林までの一連の森林施業等について、省力化、自動化等を図る技術開発や、木材生産現場における高度技能者の育成等を一体的かつ集中的に推進する。

森林作業システムの高度化

144,400千円



技術開発

- 素材や木質バイオマスの生産を効率化する林業機械の開発・改良等を推進。
- 林業事業者、民間企業、研究機関等から構成されるコンソーシアムによる取組を基本とし、現場ニーズに適した技術を開発。

人材育成

- 架線作業システム高度技能者研修
- 森林作業道作設オペレーター研修

低コスト造林技術の実証・導入促進

5,800千円

- 伐採・地拵え・植栽等の一体化による低コスト造林技術等を実証してデータを収集・整理し、導入促進に向けたノウハウの提案等を実施。

コンテナ苗の植栽

